

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三 幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ(さくらユニット)		
所在地	簸川郡 斐川町 今在家403-1		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

2ヶ月に1回定期的に開催している。地域の民生委員や駐

評価機関名	株式会社ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成22年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の食事作り、及び食後の片付けなどを専門の厨房員さんが行われている事業所さんが増えてきており、当苑も考えたことがありましたが、オープン以来の約4年半、毎日欠かさずことなく日々介護職員とご利用者とで行なってきました。それはご利用者自身がご自分の日課、役割として心得ていらっしゃる、唯一自主的に取り組まれていることだからです。以前に比べ、徐々に手間を要するようになってきたが、ご利用者の自主性を尊重した支援に今後も努めていこうと考えています。又、外部から来てくださるボランティアさん方からは「ここは初めて来たのにご利用者さんの反応がいいですね、笑顔がいいし、質問したことにすんなりと答えが返ってきます」と。そんなその人らしさが日々気軽に表出している支援に今後も努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『人の和』を暮らしの原点として、出来る限り利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、その人なりの役割を持って、無理のない自然な共同生活を営んでいる。前回の評価を基に、積極的に業務の見直しや改善が図られており、対応が早いとの印象を受けた。今年度から出雲市GH連絡協議会に呼んで頂き、参加して情報交換が出来るようになった(名称も「出雲地区」に変更された)。他の事業所と職員の交換研修を行うなどサービスの向上に熱心に取り組まれている。敷地内には300坪の畑、ハウスがあり、自分達で収穫した新鮮野菜を使っの料理は利用者からも好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 勤務年数 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の見やすいところに掲示している。又毎月の職員会議の際には、皆で声に出し唱和をし、少しでも意識を高めるようにしている	「人の和」「安心」「尊重」を理念とし、中でも『人の和』を事業所での暮らしの原点としてケアに取り組んでいる。全職員に理念が、より身近なものとして浸透していくように毎月、職員会議で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物や散歩で近隣の方と触れ合っていただいているほか、町内のふれあい祭りの参加を毎年継続している。昨年は隣の神社のお祭りや近隣の農場ファームのぶどう狩りに招待をいただきそれぞれ出向いて楽しませていただいた	年2回、地域向けの広報誌の発刊を続け、ご近所には利用者と一緒に配布された。恒例の地元のボランティアや小学生のダンスクラブの訪問、又、「ふれあい祭り」には今年も作品を出品した。今年度は、地元神社の祭りや中学校の演奏会(吹奏楽や合唱)にもご招待頂き、地域とのつながりの深まりを感じる事が出来た。図書館ボランティアによる「語り」や年3回の「回想法」、図書館祭りへの参加など公共機関の利用も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年より年2回地域向け広報を発刊しており、苑での活動や行事等を掲載している。又年に1回だが地域の高齢者の方をお招きし、手芸教室を行っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に行っている。役場、地域の民生委員、駐在所の方、またご利用者の方には無理のないように配慮しながらそれぞれに参加していただき、出された意見について前向きに検討、改善している	2ヶ月に1回定期的に開催している。地域の民生委員や駐在所の方、利用者後見人、交替で一般職員も参加している。利用者も参加され、積極的に意見、要望を話されている。家族へも参加を呼びかけてはいるが、参加はされていない。	面会や運営推進会議への参加を含め、家族の協力が不可欠であることを再度説明し、家族の理解を得る働きかけが期待されます。家族とのつながりが途切れないような支援を、職員で話しあってみて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的にはないが2ヶ月に一回の運営推進会議では極力ケアサービス内容をお伝えしている	町主催の事業所連絡会に参加している。今年度から出雲市GH連絡協議会に呼んで頂き、情報交換が出来るようになった(名称も「出雲地区」に変更された)。又、6月には保健所から講師を呼んで食中毒、インフルエンザの研修も行われた。	まだ地域の認知症への理解が十分でないように感じられる場面も見受けられるようです。町と協力して、高齢者の人権を守る教育、啓発に力を入れて頂きたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の窓は日中施錠していない。ご利用者の気分や状態の把握に努め、徘徊により外出される際はさりげなく見守り同行している。施設内、居室内においても見守りの徹底に努め身体拘束は行っていない。	玄関や居室の窓などは日中施錠していない。以前、高窓から出られた利用者の方があり、危険防止の為に、その方の部屋窓は体が出ない程度の開き幅に調整している。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、利用者が外出される時は、さりげなく見守り同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、身体チェックも必ず行っており、虐待についても見過ごさないよう注意している。学ぶ機会は新任者研修にて行ってきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年苑行事の際、専門職による利用者のご家族へ成年後見制度について説明する機会を設けた。その際職員は参加できなかったが、後日詳しく書いてある書類を回覧することで職員は学んだ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおり行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を常時設置している。ご家族からの意見や要望は職員会議にて話し合い対応している。苦情があった場合はご家族に納得していただけるまで話し合い、その経過や結果は運営推進会議でも報告している	全利用者家族に対し、各担当職員が記入した個別の報告書を渡している。その中で、職員の異動や運営推進会議の結果も報告されている。又、年4回、“さくらんぼ便り”を家族に発行している。ご家族からの意見や要望は、すぐに職員会議で話し合っており、苦情ケースは、経過や結果を運営推進会議でも報告されている。「敬老会」には家族も参加されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にユニットリーダーに、問題ある場面等で意見を聞き取るなどしてきた	勤務年数に応じた加算など給与水準の見直しを行った。職員の努力と成果を評価(考課)し、賞与に反映するようになり、管理者が手渡して個別に面談している。職員の意欲を向上させる為、組織としての体制、仕組み作りに取り組み始めている。	研修や会議記録等は、参加されなかった職員にも回覧されていますが、確認の意味でもサインを残しておかれる事をお勧めします。又、職員自身が目標を決め、自己評価する事で、納得した評価を行うシステム(自己評価と考課)となるのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については4月に見直しを実施、また個々の努力、意欲等に着眼しそれを賞与に反映した。職場環境については会議などで引き出せるように努めた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	21年秋より毎月苑内勉強会の実施、また苑外研修へもできる限り参加してきた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム実習や交流会への参加など行った		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者と職員が来訪、面談し要望などお聞きしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者と職員が来訪、面談し要望などお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの聞き取りと本人の状況を見極めさせていただくことでアセスメントを行い、入所に至ることになった一番の障害に着目しプラン作成し、それに向け職員がチームケアに取り組んだ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作りや片付け、畑作業、買い物など職員と一緒にしており、それらが日課とされている方も多。職員は常に感謝の言葉を伝えており、職員から頼られていることに自信を取り戻されている方もいらっしゃる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との絆は大切にしており面会時間や電話等の制限を設けていない。月に一度書面にてご本人の状況を家族に報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方によっては友人が定期的に面会に来られており、居室でできる限りくつろいでいただけるように配慮している。又なじみの場所へ出かけたりドライブに行ったりして思い出していただけるように努めている	友人が立ち寄られることもあり、地域商店での買い物や散歩は、ご近所の方と触れ合う機会ともなっている。ホーム内に美容室が設けられており、希望で資格を持った職員に整髪してもらおう方や行きつけの美容院に家族と出かけられる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え席順には配慮している。利用者同士の会話が少なかったりうまくいかない場合には職員が間に入りコミュニケーションを図っている。又月に一度両ユニット合同のお茶会やレクリエーションを企画し隣ユニットの利用者の方ともコミュニケーションを取れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への数回の訪問は必ず行っている。又当苑での認知症研修への参加の呼びかけ等も行うなどの支援をした		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにてその方の状況を共有している。お茶会時の話題で、どんなところへ行きたいか、何を食べたいかなどご本人の意思をさりげなくお聴きし、それを実施につなげている	ユニットカンファレンスで日々の状況を共有している。個々の利用者の生活パターンを職員が十分認識しており、様々な場面で利用者へ委ね、利用者の意思を表出できる機会を積極的に作っている。希望者は両ユニット合同のレクやお茶会、併設のデイサービスへの参加など、その日の気分で参加されている。	個別に深い関わりが出来るように、月1回、フリーの職員を置き、趣味のクッキー作りをしたり、引きこもりがちな利用者とは1対1の時間を作るなど過ごし方を工夫され始めている。有意義な余暇活動や過ごし方を期待しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や環境、サービス等は個人のケース記録にファイルされており職員はいつでも見ることができる。う夜勤時などに目を通して把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、ケアプランなどを通し行っている。問題が起こったときには速やかにカンファレンスを行い解決に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したプランについて毎月モニタリングし、特変時には速やかにカンファレンスを行ってきた。また作成する際には、利用者、ご家族の意向をお聴きしプランに取り入れるようにしてきた	日々のケアや気付きは個別に記録しており、個人毎にファイリングし職員間で共有している。介護計画はユニット毎のカンファレンスで話し合い、利用者自身に「希望、不満など」を確認している。又、家族を呼んで意見を聞いた上で要望があれば介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、気づきは個別に記録しており個人毎にファイリングし、それに目を通すことを主に職員間で共有している。利用者の気持ちや行動の変化を把握しカンファレンス(各人について月に1度以上)にて検討し、状況に応じた支援内容を実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば家族の状況や希望により医療機関の送迎などを行っている。また併設のデイサービスでの行事参加や、デイサービス時間に一部の方はそこに参加される方もいらっしゃる、利用者の楽しみとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、スーパー、公園、神社など身近にある施設を積極的に利用し利用者の方々に楽しんでいただいている。また近隣の中学校から呼んでいただき吹奏楽の鑑賞にも出かけ楽しまれた事がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望を聞いて主治医を決定しているが現在全利用者が苑の協力医をかかりつけ医とされている	入所時に、希望を聞いて主治医を決定しているが、現在、全利用者が苑の協力医をかかりつけ医とされている。かかりつけ医とは24時間体制の契約により適切な医療を受けられる。いざという場合には入院の受け入れも可能な体制にある為、利用者、家族や職員の安心となっている。薬剤師の協力やその他、歯科医や専門医とも協力的な関係にある。	受診や医師との相談も事業所が行う事で家族の負担は少なくなっていますが、利用者と家族の距離を離す結果も懸念されます。家族にも普段の様子や変化を直接感じて頂き、家族もプラン作成に参加していることを自覚できるような働きかけをお願いしたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で捉えた変化などはかかりつけ医の往診時報告し指示をいただいている。急な場合は臨時往診を依頼し適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族及び病院関係者と連絡をとりあい、又入院先への訪問も必ず行い本人の状況把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時及び入所時に説明をしご理解を得た上で入所していただいている。将来的に在宅復帰が困難な方については早期から特養申し込みについての説明もしている	看取りは行わない方針であり、医療度合いが高くなればホームで生活出来ない事を、入居時に家族に説明されており、殆どの方が特養入所を申請されている。ぎりぎりまで、利用者、家族の希望に沿った支援に対応し入院の際は病院に面会に行く等、連携を図りながら、利用者や家族を支援している。退所者の家族へ研修の案内を働きかけたケースなど継続した支援が行われている。	職員間で繰り返し、重度化や終末期の対応について話し合うことで、看取りの指針を全職員で共有して頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し年に一回救急法の実技研修を受けている。昨年度利用者に心肺停止者があったが、職員の適切な蘇生にて一命をとりとめられた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に消防署に依頼し避難訓練、消火活動、警報機の使い方などの指導を受けている。職員の休憩室には水害時の避難場所の地図が掲示しており、災害時に必要な道具が入っているリュックサックも常備しており、即持ち出せるようにしてある	消防署の協力で避難訓練(昼夜設定)や救急法、警報機の使い方等の指導を受けている。避難用リュックサックを常備し、避難場所・避難方法等は手順書を整え周知徹底した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内研修などにてプライバシー、個人情報の取り扱いについて学び、マニュアルも作成された。排泄介助、声かけ、などプライバシーには配慮している	マニュアルを作成し、職員会議やユニット会議など機会あるごとに、職員への教育が行われている。利用者の排泄介助や誘導の声かけなど日常の場面でも配慮が伺えた。個人情報に関する文章や同意書などもきちんと整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にはできる限り希望をお聴きし外出先や食事、お菓子、レクリエーションで行いたいことなど日常において自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の流れはあるが本人の気分や体調に合わせてその日を過ごしている。レクリエーション不参加や居室で過ごされていることが多い場合には15分程度ではあるがマンツーマンでのかかわりを持ち、本人の意思や体調など傾聴している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについての声かけやくしや髭剃りの手渡しなど各人に合った方法で支援している。中には化粧をされる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、食べたいものが聴けたときには献立に生かしている。苑の畑で作った野菜を利用者と一緒に収穫、掃除、料理を行うことで関心を深めるようにしている	高齢者向けの食事を工夫し、利用者の体重や検査値変化を見ながら主治医の助言の下、献立を作成している。粥食、刻み食、ミキサー食など利用者にあった形状で提供している。利用者と一緒に作った食事を、職員も利用者と一緒に、同じテーブルを囲んで和やかに食べられている。又、一人ずつ弁当箱に詰めて出掛ける「青空弁当」は利用者に喜ばれている。	給食検討委員会では、手作りオヤツの検討もされていますが、利用者と職員と一緒に楽しめる機会が増えることを期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体重変化や、身体の結果や主治医の助言の下職員が献立を立てている。年2回栄養士に献立を見ていただき、評価を次に生かしている。水分は、自由に飲めるようテーブルの上に常時適温の番茶が入ったポット、湯のみがあり利用者が自由に飲めるようにしている食事、水分が摂取できない方は摂取量のチェックし、諸きいん全員で把握し不足しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけのみ、磨き残しのみを洗う、全介助など各人に応じた支援を行い、毎食後のケアを実施している。口腔ケア研修会へ参加し、口腔ケアの重要性を学んだ以後。食事前には口腔スポンジで口腔マッサージを行っており誤嚥防止にも努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ装着される方についても、日中はできる限りトイレでの排泄援助に努めている	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握して、早めに誘導を行っている。自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、全利用者の排便状況の確認をすることでその日勤務している職員は把握している。便秘者へは水分補給、腹部へのホットパック、散歩など個々に応じ対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時間、血圧が安定している時間など個々の状況や希望に応じ入浴していただいている。夕食後の希望者がいらつしゃるため19:45分終了の勤務体制を設けている	希望に沿った入浴支援が行われており、寝つきが悪い方や希望の方には、夕食後に入浴して頂いている。又、下肢の浮腫がある方や、寝つきが悪い方には入浴が無い日も足浴を続けており、症状が改善してきている。寒い時期は、脱衣所の温度調整にも気遣っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々本人の気持ちや状況にあわせて、ホールテーブルコタツや居室、ホール和室のコタツなど安眠、休息していただけるよう常に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服用されている薬の内容、効能、副作用など薬説明書を常に職員はいつでも把握できるよう各人のケース記録にファイルしてある。特に注意が必要な薬などについては、別に連絡ノートで申し送るなどで周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の嗜好や生活歴など十分に考慮し、編み物、料理、外出など日々のケアに生かしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋までの間は毎日のように屋外への散歩の実施をした。イベントや行楽地への外出も頻繁に行った。また帰宅願望の強い利用者については親族へ協力を依頼し、定期的に自宅への外出もひと時していただいた	日々の食材の買い物や、夕方の散歩など日常的に外出している。自宅に立ち寄り、近所の方とお話したり、お墓参りなど個別の援助がされている。利用者の希望を聞きながら喫茶店や回転寿司など外食に出かける事も度々ある。外食や本人の買い物では自分の財布から支払うようにしている方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や外出した際、お金の支払い時には、できる限り職員が見守りながら本人に支払いをしていただくなどの支援をしているが、できません、お願いしますと言われる方が多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話がかけたいときには自由に事務所に来られ、電話をつないであげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな飾りや七夕飾りほか、ホールの掲示板には常に四季を感じられるように飾り付けされている	アイランドキッチンでありフロアはオープンな空間となっている。続きにある8畳の和室は、状況によって襖を開け閉めする事で使い分けられている。コタツに手作りの脚台を取り付け椅子用コタツに改造したり、利用者に応じた生活環境を配慮し改善に努めている。雛飾りや利用者と一緒に作った季節を感じさせる作品も飾られている。又、毎日、利用者も自然に加わって掃除がされており、清潔感がある。気候が良いと、ユニット間のテラスは集いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは和室、テーブル、テーブル用コタツの場と3箇所にてご自由に過ごしていただけるように十分なスペースがあり、状況に応じ職員も配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物、テレビ、こたつなど各人や家族の思いに沿って家具や調度品がそろえられ、居室は利用者ごとに雰囲気が出されている。また利用者の安全性も考慮中にはベッドの位置を、家族や本人が了解の下置くなど配慮している	利用開始には、使い慣れた家具や持ち物となるべく持ち込んで頂くように説明されている。ベッドや畳、家具の配置など入居者の個性が出ている。コタツや電気毛布等、暖房器具も個別に使用されている。CDデッキを持ちこみ音楽鑑賞を楽しまれる方もある。毎日の掃除のほか、週1回は、居室掃除の日を設け、利用者と一緒に掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り自由に暮らしていただくことユニット外へも自由に出入りされ、事務所や玄関へも頻りに出入りされている方もいらっしゃる。またキッチンも一部のご利用者だけが自由に利用されている。トイレ前には分かりやすくトイレと表示している		